

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

「雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を。

イザヤ35：4

兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです。あなたがたも忍耐しなさい。心を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。

ヤコブ5：7～8

目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。

マタイによる福音書11：5

【説教要旨】

私たちの生きているこの時代は、大きな激動期です。時代はまことに宗教を必要としながら、実に人間は大きな技術を得て、物質主義の中にあってエゴイズムがむきだしになってきています。信仰をもって生き抜くことはまことに空しく、難しいものを感じているのではないかでしょうか。私たちに越えられないような試練が襲ってきます。

待降節になると聖卓布が紫になります。紫は王の尊厳、悔い改め、忍耐を表します。紫は、受難節のとき、イエス・キリストが十字架におかかりなったときも使われます。苦しみです。

クリスマスは、私たちの王なるイエス・キリストが来られる誕生の時です。その方は十字架におかかりになったのです。待降節は、喜びと苦しみを思う時です。「忍耐しなさい。心を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っている」という日々です。

2025年も決して、喜べる日々だけでなく同時に苦しみの

日々であったと思います。生活に大きな複雑な影響を与え、私たちの心に暗い、重いものをもたらしています。私たちの無力さをつくづくと思い知らされました。試練の日々です。

国は滅ぼされ、王も指導者も殺され、神殿も破壊され、バビロンに多くの人は、奴隸として未開拓の地に強制的に連れていかれ、苦役と苦悩の中に日々を暮らします。この苦悩の地で喜べるような状況になかった民にイザヤは、「主に贖われた人々は帰って来る。とこしえの喜びを先頭に立てて／喜び歌いつつシオンに帰り着く。喜びと楽しみが彼らを迎える／嘆きと悲しみは逃げ去る。」と語り告げます。現実は暗い闇が多い、試練の日々です。しかし、神の救いは、この暗闇の試練の中に近づき、喜び歌いつつシオンに帰り着く。喜びと楽しみが彼らを迎える／嘆きと悲しみは逃げ去ることが近いというのです。それは、また、私たちにも希望を見いだせない重い闇が覆っている世界にあって告げている予言です。

この小さい私は何が出来るのかと私たちは叫ばざるを得ません。いや押しつぶされそうです。しかし、マタイは独特な福音を私たちに告げています。「天の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。」と。「天の国」とは、神が支配される世界です。神が支配される世界は最も小さな者でも、なによりも偉大な力ある者であるというのです。私たちも希望を見いだせない重い闇が覆っている世界にいるのでなく、神が支配される世界にいるのです。クリスマスの出来事は小さなマリアとヨセフ夫婦の物語であり、小さな力なき差別の中にはいた羊飼いの物語であり、三人の博士は神の救いの外にいる異邦人の物語です。しかし、この物語は神が支配されているという見えぬ力が、闇に包まれているマリヤとヨセフ、羊飼い、三人の博士の最も小さき者を救い主イエス・キリストに出会わせます。

「イエスは、弱い人びとの悲しみや苦しみに共感し、その人生に寄り添い、共に生きていくことが出来るよう、そうした(学力、学歴、財力、社会的高い地位)一切を放棄してしまっているのです。悲しみ苦しむ人々と共にいるメシア、それがマタイの視点です。」(「キリストの言葉」森一弘 平凡社) 小さいゆえに試練、嘆きと悲しみがある。

主に贖われた人々は帰って来る。とこしえの喜びを先頭に立て

て／喜び歌いつつシオンに帰り着く。喜びと楽しみが彼らを迎える／嘆きと悲しみは逃げ去るという預言が成就するのです。この成就こそクリスマスであり、忍耐し、心を固く保ち得る恵みが与えられているのです。

確かにルターが言うように『『言葉に表されない呻き』、試練の連續で、『言葉でもって語れず、ただ心の激しい動きによる』、根本的存在が揺り動かされていることに疲れはてている私がいる。試練は現在している。試練は試金石であり、単に知ることや理解することを教えるのではなく、神の言葉がいかに真実であり、いかに甘美で愛すべく、いかに強力で慰めに満ちているか、すなわちあらゆる知恵に優る知恵であるかを経験することを教える。・・・・神の言葉があなたのうちに立ち現れると、悪魔があなたを襲ってきて（試練によって）あなたを正しい教師となし、悪魔の試練を通して神の言葉を求め愛するよう教える』「キリスト教思想の諸時代 ルターの思索 金子晴勇 YOBEL

私たちは見て、知っている。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待っていることを。

これと逆なことは焦りです。現実の厳しい、重い、疲れさせる闇の中で、救いの時を信じ切れず焦り、心固く保てなくなっていくことです。救いは必ず来るという時、その時を示してくださったのがクリスマスの時です。現実ばかりの時を見るのではなく主が来られる時、天の国、神が支配される時を見る。これが、紫が示す悔い改めです。試練を通して神の言葉を求め、愛することが与えられます。焦らず、忍耐し、心を固く保って、大地の尊い実り、キリストが来られる救いを待ちましょう。内外ともに試練が続く日々がありますが、忍耐して、たとえそうでなくてもイエス・キリストの救いの希望が与えられていることへと導かれているクリスマスに喜びをもって迎えましょう。主に贖われた人々は帰って来る。とこしえの喜びを先頭に立てて／喜び歌いつつシオンに帰り着く。喜びと楽しみが彼らを迎える／嘆きと悲しみは逃げ去る。 イザヤ書35：10に、

牧師室の小窓からのぞいてみると



加藤拓未ルーテル羽村幼稚園園長が、翻訳したチエリスト・ビルスマさんの本（「バッハ・古楽・チェロ」～アンナービルスマ語る ARTES 社）を読んだ。

そこに「まず学生にいうことは『なかなかいいね』と声をかけること。そうすることで、学生と信頼関係を作っていくこうとしないとね。

そしてもうひとつ重要なことは、必ず学生の持っている楽器で模範演奏を示すこと。自分のもっているとても珍しい高価な楽器でやってはいけないんだ。」という話があった。そこには、教師と先生というよりも、人と人とのつき合う彼の姿があり、ビルスマさんに教えられた学生はなんと幸せだったろうかと感じた。こういう教師が一人でも多くいて欲しい時代である。

園長・瞑想？迷走記



クリスマス・ページェントの季節になった。キリスト教系の幼稚園の最大の催しである。子どもたちが劇で役を演じることにより、子どもたちは大きく成長し、変化していくのがよく見える。

しかし、肝に銘じていることは、この変化は、クリスマス・ページェントが起こすのではない。それは日々の保育によって、蓄積された子どもたちの成長の力がクリスマス・ページェントという触媒によって現れてくるのであると思っている。

幼稚園にとって、大切なことは日々の保育とどう取り組み、内容を深めていくかということである。

ルーテル羽村幼稚園は、ここ数カ月、2026年度の「教育・保育方針」を協議し、三改訂され、12月に決まり、内容に肉付けを冬休みの間にしたいと計画している。行事を組み立てることでなく、あくまで保育内容についてである。いつもこのことを忘れないようにしたい。

日毎の糧



聖書：わたしの魂は主をあがめ、わたしの靈は救い主である神を喜びたたえます。

主は身分の低い、この主の仕え女にも、目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も、わたしを幸いな者と言うでしょう。

力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。

そのみ名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。

主はそのみ腕で力を振い、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。

そのしもベイスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません。

わたしたちの先祖に語られたとおり、アブラハムとその子孫に対しとこしえに。

ルカ 1:47-55 (マリアの讃歌)



ルターの言葉から

神を信じるということは、つまり、悪魔やこの世の作り出すすべてのもの、貧困、不幸、恥辱、罪などに挫けない寛容な心をもつようになることなのである。（ヨハネ福音書14, 15章による説教）（『ルターの言葉 信仰と思索のために』W.シュパルン編 湯川郁子訳 教文館）

目を留めてくださる

ルターは、「マグニフィカート（マリア讃歌）」を書いている。その中で、「**目を留めてくださる**」という言葉を強調している。自分よりも大きな存在として神によってマリアに**目を留めてくださった方**として、受けとめています。マリアは、自分が**目を留められている**ということに感謝して、この恵みを伝えるために讃美し、次のように讃美します。「**憐れみをお忘れなりません。**」、忘れない存在として、今日も神に生かされています。

祈り：主よ、目を私に留めてくださったことに感謝し、勇気をもって一步踏み出すことができますように。

甘木通信

空の空、いっさいは空である。

すべてに時がある。生まれる時、死ぬ時。

コヘレトの知恵

一時、イエス・キリストの誕生の場面を表現したクリブ（クリッペ）を自分の懐で手に入れられるものを一年、一つと決めて集めました。

今日のクリブは小さなものです。さて、教会のどこかに飾つてあります。見つけてください。これもお気に入りのクリブです。

しかし、息子らにないようで、これ以みとして捨てられる購入を諦めました。



はごみにしか見え上、購入するとごのが落ちと思い、すべてに時があり

お皿も同じです。気に入ったお皿を集めていましたが、家内が引っ越しとともに処分したようです。名古屋時代に気に入った陶器屋さんで、瀬戸、志野（美濃焼）、常滑焼などを集めていました。今、200円の志野焼の皿は残り、料理を盛るのに大活躍です。この皿は、きっと最後まで残るにちがいません。なんせ飽きない。九州に帰って来て、小鹿田焼、唐津焼の湯飲みを購入しました。多分に私に洗礼をしてくださったU牧師が唐津焼を好きで、また、家の食器が小鹿田焼であったという懐かしさがそうさせているのかもしれません。前より後ろを見る時になりました。前を見るのはしんどい。

(甘木日記)土) 幼稚園の26年度新入園児の面接。夕刻、甘木教会。一泊。日) 礼拝も無事に、午後からの掃除、花壇の整備もみんなと嬉しい。幼稚園の委員会。真剣に。月) 朝、礼拝が終わり、大学病院へ。幼稚園に引き返し、最後まで。火) クリスマス・ページェントの準備である。水) 半日保育、春花壇の苗を購入、植える。職員会議。木) 松崎保育園で久しぶりに「聖書の学び」、「こども礼拝」。甘木教会に行き、郵便物、本の整理、羽村幼稚園のzoom会議。金) 幼稚園の聖劇の最終の練習である。楽しく演じてくれることを祈る。明日の幼稚園のクリスマス礼拝の準備のために、降園後、準備に入る。



おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）午前中は、幼稚園の26年度新入園児の面接。昼食の弁当を購入して、休みにきてくださった職員に出す。家内は松崎保育園のクリスマス祝会に出席し、甘木教会へ行く。少々、疲れたが、夕刻、甘木教会へ向かい、二人、落ち合いリンガハット・チャンポンで夕食。一泊。日）何も起きないことを祈り、朝掃除をしているKさんが気遣って手伝いに来て下さる。礼拝説教も日曜日の体験を語り、安心し神はイエスの・キリストの方に私たちを向けてくださってと。午後はクリスマス向けての掃除、春花壇にするためにみんなで苗植え。久留米に帰り、幼稚園運営委員会。祝会の劇の準備されている保護者に挨拶して、帰りにフィリピン祭りの広場に寄る。遅かったが1名の家族に会える。良かった。月）午前中は、礼拝が終わり、大学病院へは回復途上。主治いといいですねとリスマスを、新年医とお別れ。幼稚務会議。2026人事、予算の関係のがある。今日はおれた。甘木教会を送る。バッハの



行く。幸い、結果医と何も起こらな対話。「良い、クを」と言って主治園に引き返し、事年度の経営、特に者会議。厳しいも最後まで幼稚園に役員会議事原稿クリスマス・オラ

トリオを聞きながら眠る。火）幼稚園から帰宅後、家内と二人で、着任した教会、親しい方にクリスマスカードを書き、やっと送ることが出来た。水）半日保育、寒い中を外で子どもたちは元気にしている。春花壇の苗を購入、植える。今回で日善幼稚園の春花壇は終了。広い、花壇で数万円かかった。今日も一万円。歌う讃美歌は「みなささぐ」。職員会議。夜は父さんら、卒園生、卒園生の保護者とクリスマス祝会の劇の練習。こういう時間は貴重。木）久しぶりに松崎保育園に行き、「聖書の学び」、「こども礼拝」。インマヌエル、神、我々と共にいるというメッセージ。ここに立たされるとすべての道が見えてくる。甘木教会に送っていただく。大変に助かる。郵便物、本の整理。読んでいただきたい本を揃える。街の食堂で昼食。味は良し。また、行こう。羽村幼稚園のzoom会議。家のスマホンを替えに行く。店は郊外で、バスは一時間に一本。無事に購入した。帰りのバスが目の前を通る。次は30分後、それでは歩こうということで、家まで二人で歩いて帰る。二人の時間はもう少ないとこの歩く時間も愛おしくなる。口喧嘩しながら、今日も一日中、一緒にいた。こういうのを幸せというのか。金）寒い一日となつた。明日は、幼稚園のクリスマス礼拝、聖劇である。子どもたちが、風邪をひかずに元気に来て、みんなでイエスさまの誕生をお祝いしたい。